

## 未普及解消のための新たな整備手法（計画・設計・施工手法）の体系化

### 1. 検討の背景

国、地方公共団体における厳しい財政状況、人口減少等の社会情勢の変化の下、早期、低コストかつ手戻りのない未普及解消方策が求められているところ。

### 2. 検討の方向性

#### (1) 計画手法

- 都市計画上の区域区分、将来の人口動向、水質保全上の重要性等の地域特性を踏まえ、計画区域をより効率的なものに見直すとともに、時間軸に応じた弾力的な施設整備計画を策定し、実態に合わせて適宜計画を見直す。
- 計画の策定にあたっては、コスト縮減のための新たな設計・施工手法（未普及解消技術）や他の汚水処理施設との連携方策の導入を踏まえた効率的な計画とする。

#### (2) 設計・施工手法（未普及解消技術）

- 建設及び改築・更新コストの縮減を図るとともに、コストを含めた維持管理上の負担を軽減する。
- 時間軸に応じた計画設定に対応すべくより手戻りの少ない機動的な整備が可能な手法を導入する。
- 技術の進歩を反映させるとともに、実用化されている技術も含め、発想の転換等による新たな技術を採用する。その際、活用例を踏まえた採用上の留意点など地方公共団体が活用するにあたり有用な情報の提供に努める。

#### ①管きよ

- コスト縮減にあたっては、管きよ工事におけるコスト構成等を踏まえ、土工等を中心とした縮減策を検討する。

#### ②処理場

- 比較的耐用年数が短い「設備」が主で構成されており転用可能な施設も存在することから、転用可能又は耐用年数の短い施設を採用する。
- 可能な限りコスト縮減目標を設定した上で、設備・施設ともに徹底したコスト縮減に努める。

#### (3) 未普及解消技術の目標・考え方と具体的な手法 →次頁参照

### (3) 未普及解消技術の目標・考え方と具体的な手法

